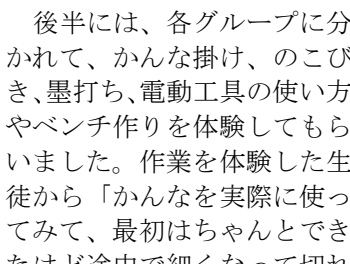


八戸市立長者中学校で大工の技に挑戦する「ものづくり体験学習」を開催しました

令和3年11月12日(金)に八戸市立長者中学校(西山康巳校長)で「ものづくり体験学習」を開催しました。今回の体験学習は、2学年の生徒82名がキャリア教育と総合的な学習の時間を利用して「ものづくり」の楽しさや魅力を体感し、職業観・労働観を養い、今後、将来の進路を選択していく生徒たちが住宅が出来るまでの過程を知ることやものづくりについて青森県立むつ高等技術専門校の木造建築を学んでいる訓練生とのふれあいを通して、職人という仕事に理解を深め興味や関心を高めることにより、すまい職人を目指すきっかけづくりを行うことを目的に実施しました。



昨今はプレカットというコンピュータ制御の機械で木材を切り込むため、墨付け、切込みという作業を見る機会が少なくなりました。樹種の異なる県産材のスギとヒバの柱を使い、釘を使わずパズルのように一体の長い柱に組み合わせて継ぐ「継手」の加工について、木造建築科の担当職員(西野修司主査、佐藤千亜希講師)が大工の手工具である鋸(のこ)や鑿(のみ)を用いて「追掛大柱継ぎ」を実演しました。継手が完成すると7人の生徒が実際に組み合わせた部材の上に乗し、それぞれの部材が一体になった柱の強度を確認することができました。



後半には、各グループに分かれて、かんな掛け、のこびき、墨打ち、電動工具の使い方やベンチ作りを体験してもらいました。作業を体験した生徒から「かんなを実際に使ってみて、最初はちゃんとできたけど途中で細くなって切れる寸前になり、いろいろ難しいと感じた」「のこ挽きでは線のとおりまっすぐ切ることができなかったの、切った面が斜めになってしまった」「見ていると簡単だと思ったが、実際にやってみると難しい」との感想がありました。



あっという間に終わりの時間を迎えた「ものづくり体験学習」でしたが、今回の事業に参加した生徒のみなさんは、ものを作ることの楽しさや奥深さ、良いものを作るためには工夫を重ねることの大切さを体験することができたと思います。これからの時代を担っていく中学生のみなさんが「ものづくり」について興味・関心を持ち、工作体験等を通して感動したり驚いたりしながら「なぜ?」「どうして?」と考えを深めることはたいへん意味のあることです。今後、当校では県内の各中学校で行われているキャリア教育や総合的な学習の時間で進路選択の一助となるような役割を果たせるよう、地域の関係団体と協力・連携した取組みを積極的に進めていきたいと考えています。今日の「ものづくり体験学習」に参加したみなさんが、仲間と楽しんだ今日の時間がモノづくり体験の思い出の1ページとなることを願っております。